

生徒指導主事等の先生方を対象に研修会を実施しました!!

7月に、3会場(9日宮崎地区、16日児湯地区、20日南那珂地区)で「生徒指導主事等連絡協議会」を実施しました。地区ごとに小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、私立学校の生徒指導主事等が一堂に会し、感染対策を徹底しての2年ぶりの参集型での実施となりました(配付資料の詳細等は、各学校の参加された先生にお尋ねください)。参加者からは、「校内研修で早速活用したい」等の感想もいただき、大変充実した研修会になりました。以下は、その研修内容をまとめたものです。

説明：事業説明及び関係機関との連携

人権同和教育課が、「不登校解消について」、「いじめの認知や未然防止について」、「SSW,SCとの連携について」の説明を行いました。また、ケーススタディ(事例研)の進め方についても説明がありました。特に**LINEを使ったいじめ相談窓口が8月18日～3月31日まで開設されます**ので、周知をお願いします。

また、県警本部からは、「学校と警察が、積極的に連携し、健全育成に努めましょう。」との話がありました。



説明の様子
(南那珂会場)

講義：スクールワイドPBSを土台にした階層的支援

スクールワイドPBS(School-wide Positive Behavior Support)とは、「学校全体で取り組む前向きな行動支援」のことです。元来、特別支援教育に取り入れられたものですが、先行的に導入した学校では、**いじめや不登校、暴力行為等の未然防止**につながったり、**児童生徒の望ましい行動の育成**につながったりと多くの成果が挙げられております。

この時間は、スクールワイドPBSの概要説明の後、県教育研修センターが実践的な内容について講義を行いました。この取組において、重要なことは、**すべての教職員が、「児童生徒に期待する大切なこと」**を共通理解して、**すべての児童生徒を対象に、同じ目線で称賛や承認など、ポジティブな支援**をすることです。

講義は、高鍋農業高校における校内体制づくりの工夫、取組の実際、生徒の変容等について、理論と実践を踏まえた活用へのイメージがもてる内容でした。定期的に、生徒を評価するためのキャンペーン(コンクール)等を取り入れながら、全職員、同じ目線で生徒たちの行動を認めていった結果、遅刻が激減したり、学力が向上したりと、多くの成果があったようです。

まとめとして、「**ほめさえすればいいというものではない。指導を要する場面ではしっかり指導すべきであり、その後の変容をしっかり見届けることが大切である。**」点を強調しました。



講義の様子(宮崎会場)

演習：スクールワイドPBSの視点を取り入れた生徒指導

実際に、スクールワイドPBSを取り入れる場合の校内研修の場面を想定し、演習を行いました。「児童生徒に期待する大切なこと」と、その「指導の場面」を1つに絞り、「行動目標」を検討しました。さらに、それを評価するためのキャンペーン(コンクール)についても考えてもらいました。

以下は、協議において、ある中学校グループが考えたものです。

- 「大切にしたいこと」～自分を育てよう
- 「指導の場面」～授業中
- 「行動目標」
 - ・ 1時間に1回は自分の意見を言おう。
 - ・ 人の話を聞くときは、自分のことをやめて、友達の方を向いて話を聞こう。
- 「評価のためのキャンペーン(コンクール)」
 - ・ 学習態度コンクールで、教科担任による承認・称賛や、自己評価による振り返りを行う。



協議の様子(児湯会場)

大事なことは、全職員で、すべての児童生徒に、称賛や承認などポジティブな支援を行うことです。ぜひ、各学校でも取り入れてみてはいかがでしょうか？

なお、校内研修用の資料は中部教育事務所のHPからダウンロードできます。(ID、PW:seito0709)